

EU Indicators

欧州経済指標コメント：7月ドイツ I f o 企業景況感

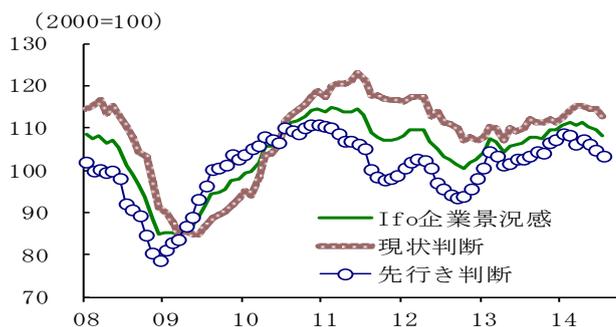
発表日：2014年7月25日(金)

～W杯優勝効果は不発～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

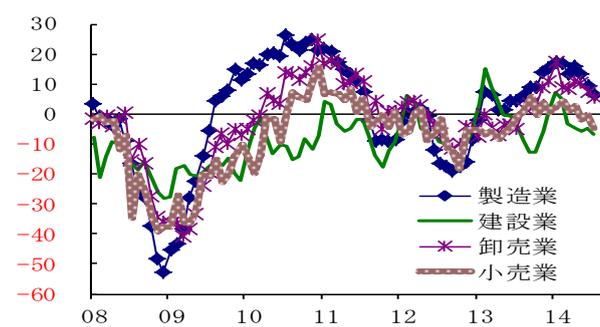
- ・ ドイツの I f o 企業景況感指数は6月：109.7→7月：108.0と3ヶ月連続で低下し、昨年10月以来の水準に落ち込んだ。内訳は、現状判断が114.8→112.9と2ヶ月振りに低下し、2～6月にかけての114～115台から水準を切り下げた。一方、先行き判断が104.8→103.4と3ヶ月連続で低下し、昨年8月以来の水準に落ち込んだ。水準はまだ高いものの、現状・先行き判断ともに明確な頭打ち感が出ている。
- ・ 業種別の業況判断は、建設業（▲3.7→▲5.5）の悪化幅が拡大したほか、製造業（+15.6→+12.4）、小売業（+8.0→+3.8）、卸売業（+12.5→+9.3）の改善幅が縮小し、調査対象区分の全てが悪化。何れの業種も現状・先行き判断が揃って前月から低下した。同時に発表されたサービス業の業況判断（I f o 指数には含まれない）も、先行き判断（+14.4→+14.7）こそ僅かに上昇したが、現状判断（+36.6→+30.5）の低下が響き、全体の業況（+25.2→+22.5）も前月から鈍化した。
- ・ 24日に発表された7月のドイツのPMI指数は、製造業・サービス業ともに改善モメンタムが加速。ドイツ景気が、暖冬による建設需要の反動減、ユーロ高、地政学的緊張の高まりを乗り越えたかに思えたが、今回の I f o 指数の落ち込みはこうした期待を裏切るもの。発表元の I f o は地政学的緊張が業況の重石になっていると指摘するが、景気サイクルが下降局面に入ったとの不安も過ぎる。PMI指数でサービス業全般の改善モメンタムが大幅に加速し、W杯優勝の特需も予感させたが、ドイツ国民はサッカー観戦で盛り上がった位では財布の紐を緩めない“堅実な国民”と言うことだろうか。

■ ドイツ：I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ ドイツ：I f o 業種別の先行き判断



出所：Ifo

■ ドイツ I f o 企業景況感

	2013		2014		2013		2014						
	3Q	4Q	1Q	2Q	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
企業景況感(総合)	107.2	108.8	110.9	110.4	109.5	110.6	111.3	110.7	111.2	110.4	109.7	108.0	
現状指数	111.2	111.7	114.0	115.0	111.6	112.4	114.4	115.2	115.3	114.8	114.8	112.9	
先行き指数	103.4	106.0	107.8	106.0	107.4	108.8	108.2	106.3	107.2	106.1	104.8	103.4	
業況判断	7.0	10.1	14.0	13.2	11.4	13.6	14.8	13.7	14.7	13.2	11.8	8.6	
製造業	10.4	14.0	18.8	18.2	15.5	17.7	19.7	19.0	20.1	19.0	15.6	12.4	
建設業	-3.8	-2.5	-0.3	-3.8	1.3	2.3	0.5	-3.6	-3.5	-4.1	-3.7	-5.5	
卸売業	4.6	9.7	12.9	12.7	9.3	15.3	12.6	10.9	14.3	11.3	12.5	9.3	
小売業	4.1	4.5	7.0	6.8	4.7	4.2	8.4	8.5	7.6	4.8	8.0	3.8	

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。